

基本施策評価シート

基本施策最終評価

A

基本施策通し番号 2

基本施策 豊かな心を育てる文化力の育成
構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	文化的遺産の保存と活用	A
施策2	文化芸術の振興	A
施策3	文化施設の整備と充実	B

成果指標

指標	内容	平成32年度 目標	平成30年度末 実績	単位	平成30年度の成果の検証
指定等文化財件数	国指定、国登録、県指定、市指定の文化財件数	141	142	件	旧内山家住宅主屋など計7件が、国登録有形文化財(建造物)として登録され、特別交付税額算出の基礎数値としてカウントされる。また、今後、文化財としての価値を維持するため、かかる修繕等に対して国の指導および補助金を受けることが可能となった。
公演などの開催回数	市が支援する音楽会や演劇などの文化公演の年間実施回数	16	7	回	音楽、映画、演劇、影絵劇、工芸など、様々な分野の文化に市民が触れる機会を創出できた。

後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的、文化的遺産が市内各地域で大切に保存され、新たに観光資源として注目されはじめている。 ・人々に元気を与え魅力ある社会づくりを推進する「文化力」が重要視されており、市では、教育理念を掲げ、文化の分野においても豊かな心を持つ大野人の育成に努めている。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・生活様式の変化や、人口減少による後継者不足により、文化的建造物の保存や伝統芸能等の継承が危ぶまれており、後世に伝えていくための支援が必要である。 ・優れた文化芸術を鑑賞したり、市民自ら発表する場を創出するためには、文化施設の整備や文化芸術に触れる機会の充実が必要である。

社会情勢・市民ニーズの変化

- ・市民の市内に伝わる伝統文化や文化財を保護し、地域で傳承しようとする意識は根強い。
- ・新たな化石の発見や企画展等の開催により、市民の化石に対する注目度が高くなった。
- ・文化芸術の様々な分野に関心を持っており、文化施設の整備や文化事業の充実を求める声も多い。

現在の「現状」と「課題」

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・中部縦貫自動車道の和泉工区着工により化石を含む岩石の産出が見込まれる。化石の研究については県立恐竜博物館と共同研究の協定が交わされている。県立恐竜博物館と共同で、中部縦貫自動車道整備工事に係る工事立会い、大野市東勝原・貝皿の化石産出地を対象に本格的な調査を実施し、地質及び化石の調査研究が進んでいる。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の修繕費や維持管理経費の負担が大きいこと、伝統芸能の後継者がいないことなど、文化財の保存や継承が危ぶまれる。 ・中部縦貫自動車道整備工事の進捗に伴い、大量の化石、岩石産出の調査研究を進める必要がある。

基本施策の「成果」

成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・国登録有形文化財(建造物)として、旧内山家主屋など7件が登録された。 ・COCONOアートプレイスの展示用品の整備やホームページの作成など、施設の充実を図るとともに、企画展示を充実させることができた。 ・東勝原地籍から恐竜の歯の化石を発見し、県立恐竜博物館と共同研究し公表した。 ・文化振興の拠点となる文化会館の整備方針をまとめた基本計画を策定した。
-----	---

改善点

- ・化石の発掘、調査について、公表、展示など県との協定の詳細内容について協議していく。
- ・文化的建造物や伝統芸能等文化財の保存や継承が危ぶまれており、後世に伝えていくために、文化財の散逸防止や維持保全を図る。